

武蔵台緑地とは

武蔵台緑地は、府中市北西部の国分寺崖線の斜面に帯状に残された樹林です。府中市内の樹林としては浅間山に次ぐ規模を持っています。東側に隣接する国分寺市の黒鐘公園や伝鎌倉街道沿いの樹林とともに、この地域本来の自然環境を残す貴重な緑地です。これまでに行われた市民などによる調査では、約320種の植物と約290種もの昆虫が記録されており、生物多様性保全の上でもきわめて重要な場所であるといえます。また、府中市の都市計画マスタープランや「緑の基本計画」においては、「地域における緑の拠点」に位置づけられており、市の景観計画に基づく景観形成推進地区にも含まれています。

崖線の地形

武蔵台緑地を含む国分寺崖線は、立川市から大田区まで東西方向につらなる崖で、約3万年前に古多摩川が侵食してできた地形と考えられています。崖下には湧水が点在し、地元ではハケと呼ばれてきました。

武蔵台付近では崖の高さは10mほどにすぎませんが、斜面であるため開発を免れ、変化に富む植生が残されています。また帯状につらなる崖線の緑は、動物や鳥類の移動経路として重要な役割を果たしています。

明治中期の地図を見ると、武蔵台付近の崖線からその上の平坦地（現在の多摩総合医療センター敷地）は松林や雑木林（薪や堆肥にする落葉を採取する農用林）で、崖線の下には湿地が広がっていたことがわかります。

崖線の緑の特徴

武蔵台緑地では、浅間山などによく似た、コナラやクヌギを中心とした雑木林が最も広い面積を占めています。しかし、崖線という地形を反映して、それと異なる特徴をもった部分も見られます。

斜面の下部にはケヤキなどが多く、台地上に一般的な雑木林よりは、山地の溪谷林に近い林になっています。一方、崖線の上の平坦地では、府中市内では唯一となったアカマツ林もあります。これらは手付かずの自然林ではありませんが、人の利用とのバランスによって、崖線らしい特徴を失うことなく維持されてきました。そのため、武蔵台緑地には市内でここにしか見られない植物や昆虫も多数生育し、地域の「生物多様性ホットスポット」となっています。

武蔵台緑地の現状

武蔵台緑地では、これまで明確な目標をもった植生管理が行われてきませんでした。そのため、アズマネザサ（篠）の密生や常緑樹の増加により遷移が進行し、うっそうとした藪のようになりつつあります。

人の利用とのバランスがとれた姿がそなわれた結果、過去30年余りで絶滅したり、数を大きく減らした生き物も多くいます。こうした変化は、公園利用者の安全確保や景観の面でふさわしいとは言えません。地域の自然環境と生物多様性を保全し、市民にとっても快適な緑地を作るためには、武蔵台緑地の特徴を生かした植生管理を行うことが必要です。

武蔵台緑地 植生管理ガイドラインより転載

10月頃武蔵台公園に咲く主な花と果実

ヌスビトハギ



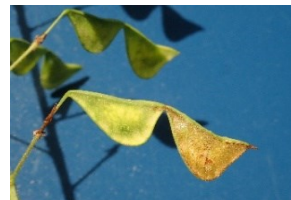
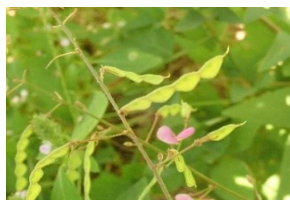
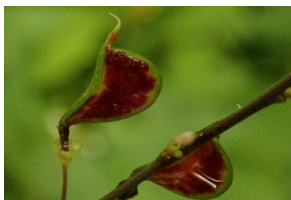
アレチヌスビトハギ



フジカンゾウ



ヤマハギ



ネコハギ



メドハギ



ホトギス



タイワンホトギス



マヤラン



カラスノゴマ



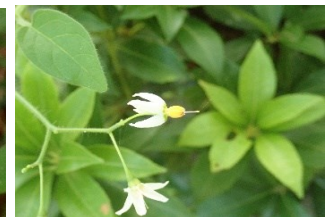
シロヨメナ



シラヤマギク



ヒヨドリジョウゴ



キンミズヒキ



エゴマ



クサギ



サワフタギ



アオツツラフジ



ガマズミ



イイギリ



ゴンズイ



ヤマコウバシ



クヌギ



コナラ

